

# 平成23年度 地域における産学連携支援事業評価委員会議事録

平成24年3月15日  
研究推進課

## 1. 開催経緯

地域における産学連携支援事業について、農林水産省の外部の機関への委託事業として実施したため、地域における産学連携支援事業に係る委託事業評価要領（平成22年4月1日21農会第1165号、以下、「評価要領」という）に従い、地域における産学連携支援事業評価委員会（以下、「評価委員会」という）を設置し、事業の評価を実施した。

## 2. 評価委員会の開催形式

平成23年度の評価委員会は、3月15日（木）に農林水産省内で開催した。

評価に当たっては、評価対象である以下2件の委託事業について、当該年度の事業実施計画及び事業実施状況等についてヒアリングおよび質疑応答を行った上で、評価要領に従い評価を行った。

### 評価対象委託事業

#### （1）地域産学連携支援委託事業

事業実施期間：平成22年度～平成24年度

受託者：地域産学連携コンソーシアム

#### （2）産学連携人材育成支援委託事業

事業実施期間：平成23年度

受託者：株式会社三菱化学テクノリサーチ

## 3. 評価委員の構成及び座長の選任

平成23年度の評価委員は以下6名で構成した。

- ・東京農工大学 イノベーション推進機構長 教授 千葉 一裕
- ・国立大学法人和歌山大学 地域創造支援機構（地域創造支援マネージャー）  
湯崎 真梨子
- ・北海道立総合研究機構 林産試験場 技術部長 斎藤 直人
- ・株式会社 リバネス 代表取締役 COO 高橋 修一郎
- ・国立大学法人宇都宮大学 農学部生物生産科学科 教授 杉田 昭栄
- ・農林水産技術会議事務局研究推進課長 迫田 潔

委員の互選の結果、迫田委員が座長に選任された。

なお千葉委員は中途からの出席となり、地域産学連携支援委託事業の評価のみの参加となった。

#### 4. 議事

- (1) 冒頭、座長の指示により、研究推進課担当より、「地域における産学連携支援事業」の概要、および評価方法について説明を行った。
- (2) その後、株式会社三菱化学テクノロジーサーチより、平成23年度産学連携人材育成支援委託事業の実施状況について報告があり、報告内容について質疑応答を行った。報告者退席後、各評価委員が審査表により採点を行い、結果を集計した。
- (3) さらに、地域産学連携コンソーシアム（代表機関である社団法人農林水産・食品産業技術振興協会）より、平成23年度地域産学連携支援委託事業の実施状況、および平成24年度の地域産学連携支援委託事業の実施計画について報告があり、報告内容について質疑応答を行った。報告者退席後、各評価委員が審査表により採点を行い、結果を集計した。
- (4) 両事業の採点終了後、総括的な議論を行ったが、特段の議論はなかった。

#### 5. 評価結果

各委員の評価結果をとりまとめたところ、結果以下の通り。

##### (1) 地域産学連携支援委託事業

- 委託事業の目標の達成度等 (A：高い)
- 委託事業が社会・経済等に及ぼす影響 (A：高い)
- 委託事業の推進方法の妥当性 (A：高い)
- 委託事業の実施体制の妥当性 (A：高い)
- 総括評価 (A：高い)

なお、平成22年度から平成24年度の3カ年計画で実施中の委託事業について、現段階で中止すべきとの意見は無かった。

##### (2) 産学連携人材育成支援委託事業

- 委託事業の目標の達成度等 (A：高い)
- 委託事業が社会・経済等に及ぼす影響 (A：高い)
- 委託事業の推進方法の妥当性 (A：高い)
- 委託事業の実施体制の妥当性 (A：高い)
- 総括評価 (A：高い)

##### (3) 助言等の内容

評価の結果、B：やや低い、C：低いとの評価結果となった項目はなく、具体的な改善方針についての助言等はない。

##### (4) その他の議事

各評価委員より、別紙のようなコメントが寄せられた。

(以上)

(別紙)

## 1. 地域産学連携支援委託事業に対し各評価委員から寄せられたコメント

- (1) 農林水産業の特徴をピックアップした支援目標を明確化すると良い。
- (2) ベンチャー企業の事業設計や資金計画等についてアドバイスできることが重要
- (3) 常勤コーディネーターが競争的資金の申請の前段階のチーム形成を複数実施することで、事業化への共同研究・資金獲得が加速すると思われる。
- (4) 実用化を想定した連携形成に努めており評価できる。
- (5) 普及展開支援に更に厚みを持つように検討して欲しい。
- (6) 「異分野」についてより詳細な分析がされると更に良い。
- (7) 取組みの年度別の重点を明確にすると良い。
- (8) 大学と企業とをマッチングさせる取組みがもう少し必要。
- (9) コーディネーターの活動の結果を、業種別等でその特徴を分析した上で、次の活動に反映させるようにしてはどうか。

## 2. 産学連携人材育成支援委託事業に対し各評価委員から寄せられた代表的コメント

- (1) ビジネス創出を視野に入れたカリキュラム構成であり評価。
- (2) 海外の取り組み事例の研究成果等も取り入れてはどうかと考える。
- (3) 強いネットワークの形成や推進に留意したカリキュラムとすることが重要。研究後のフォローを設定すると更に良い。
- (4) 研修生のレベルを揃えることも必要。
- (5) コーディネートのためのスキルスタンダードが提供されるとなお良いと考える。
- (6) 若手向け基礎研修等を設定するなどし、参加者の中に若者が増えることを期待する。
- (7) もっと広く対象者を募集する努力が必要。
- (8) もう少し場所を限定して研修を開催しても良いかもしれない。

(以上)